

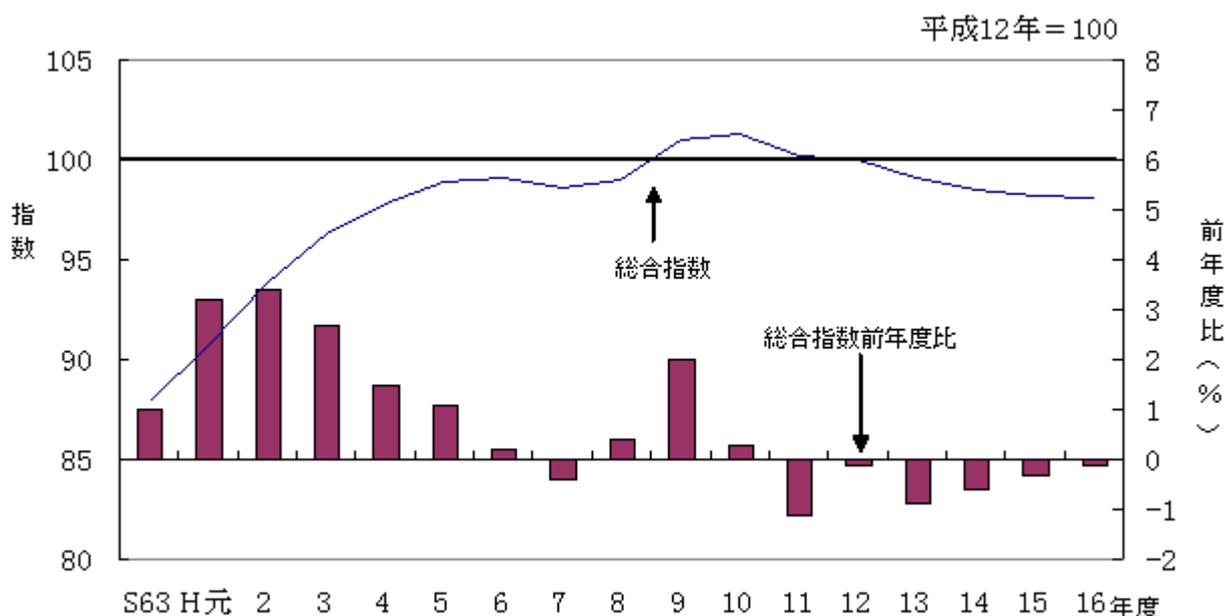
あらまし

平成16年度平均の名古屋市消費者物価指数(確報値)は、平成12年を100とした総合指数で98.1となり、前年度に比べ0.1%の下落となりました。なお、総合指数は、平成11年度以降6年連続で下落しています。

前年度からの主な動きをみると、ルームエアコン、パソコンなどの値下がりにより耐久消費財が、固定電話通信料の値下がりにより通信がそれぞれ下落したほか、電気・ガス代も下落しました。一方、昨年 of 天候不順などにより生鮮野菜が高騰したことに加え、外食、乳卵類が上昇したほか、原油価格の高騰でガソリンが値上がりしたことにより自動車等関係費も上昇しました。

また、生鮮食品を除く総合指数は97.9となり、前年度に比べ0.2%の下落となりました。なお、生鮮食品を除く総合指数は、平成13年度以降4年連続で下落しており、下落幅は縮小したものの、緩やかなデフレは依然として続いています。

図1 名古屋市消費者物価指数の年次推移



前年度からの動き

・食料は99.5となり、前年度に比べ0.8%の上昇

生鮮魚介は2.3%の下落

<値上がり> かつお、いかなど

<値下がり> まぐろ、えびなど

生鮮野菜は5.9%の上昇

<値上がり> キャベツ、レタスなど

<値下がり> ごぼう、かんしょなど

生鮮果物は4.9%の上昇

<値上がり> みかん、りんご(ふじ)など

<値下がり> バナナ、なしなど

乳卵類は4.3%の上昇

<値下がり> 鶏卵など

外食は1.9%の上昇

<値上がり> 牛どんなど

- ・住居は101.3となり、前年度に比べ0.2%の上昇
家賃は0.5%の上昇
　　<値上がり> 民営家賃(木造中住宅)など
- ・光熱・水道は 97.7となり、前年度に比べ0.4%の下落
電気・ガス代は0.9%の下落
　　<値下がり> 電気代など
- ・家具・家事用品は79.6となり、前年度に比べ6.5%の下落
家庭用耐久財は13.4%の下落
　　<値下がり> ルームエアコン、電気冷蔵庫など
- ・被服及び履物は 100.3となり、前年度に比べ1.8%の上昇
シャツ・セーター・下着類は4.6%の上昇
　　<値上がり> 婦人セーター(長袖)など
- ・保健医療は102.3となり、前年度に比べ1.1%の下落
保健医療サービスは1.2%の下落
　　<値下がり> 診療代
- ・交通・通信は 98.5となり、前年度に比べ0.3%の下落
自動車等関係費は0.2%の上昇
　　<値上がり> ガソリンなど
　　<値下がり> 自動車保険料(任意)など
通信は3.0%の下落
　　<値下がり> 固定電話通信料など
- ・教育は103.4となり、前年度に比べ0.6%の上昇
授業料等は0.7%の上昇
　　<値上がり> 私立大学授業料、私立高校授業料など
- ・教養娯楽は 89.4となり、前年度に比べ1.5%の下落
教養娯楽用耐久財は13.1%の下落
　　<値下がり> パソコン、テレビなど
- ・諸雑費は101.7となり、前年度に比べ0.2%の上昇

表1 10大費目別前年度比及び寄与度

平成12年=100

		総合		食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
		生鮮食品を除く総合	生鮮食品											
前年度比 (%)	15年度	△ 0.3	△ 0.3	0.0	△ 0.6	0.2	△ 0.5	△ 6.0	△ 1.5	4.2	△ 0.4	0.6	△ 2.0	0.6
	16年度	△ 0.1	△ 0.2	0.8	2.8	0.2	△ 0.4	△ 6.5	1.8	△ 1.1	△ 0.3	0.6	△ 1.5	0.2
寄与度	15年度	△ 0.30	△ 0.29	0.00	△ 0.03	0.03	△ 0.03	△ 0.20	△ 0.09	0.16	△ 0.05	0.03	△ 0.22	0.03
	16年度	△ 0.10	△ 0.19	0.24	0.13	0.03	△ 0.03	△ 0.20	0.11	△ 0.04	△ 0.04	0.03	△ 0.16	0.01

利用上の注意

1 年度平均指数確報値について

この年度平均指数確報値は、平成16年4月から平成17年3月の各月の指数値を用いて、総務省統計局が集計したものです。

2 指数について

- (1) 指数の基準時及びウエイトの算定期間は、平成12年の1年間です。
- (2) 指数の算式は、基準時加重相対法算式(ラスパイレズ型)によります。
- (3) その他詳しくは総務省統計局公表資料を御覧ください。